

地域主体の移動手段の実現に向けて ～グリーンスローモビリティ(グリスロ)等の導入と運行団体の公募について～

① 地域公共交通計画 基本方針3:多様な主体の連携や協働により公共交通を補完する

今後の更なる高齢化の進行に伴い、近所への徒歩等による移動は単独でできるものの、自家用車や公共交通機関を利用した単独での外出が難しい人が増加することが見込まれます。このため、地域の住民や団体等が主体となって、その地域のニーズに応じた移動手段を導入・運営する取組を支援すること等により、公共交通の補完を図ります。また、輸送資源の効果的・効率的活用や担い手確保への協力等を通じて、きめ細やかで持続可能な移動環境の形成を図ります。



② 課題解決の方向性と考え方

- 免許を持たない高齢者や子供等の移動を地域住民同士の共助で実現する事業
- 多様性のある住民が気軽に外出できる、コミュニケーションができる場の提供
- 支援する側も生きがいや人とのつながりを実現するウェルビーイングな活動

③ 他自治体の研究(4市町)

- ワンボックスカー(睦沢町)
- ゴルフカート型グリスロ(千葉市)
- バス型グリスロ(船橋市、松戸市)

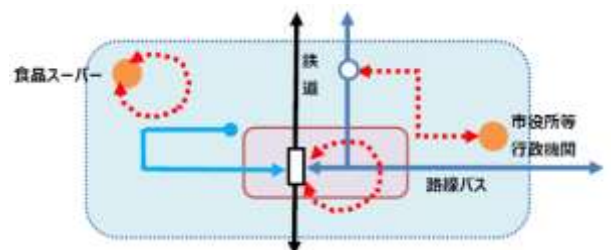


④ 市のあるべき姿の設定

- 外出機会の創出を目指す住民同士の共助による事業取組ハードルを低くした支援を行う
- 交通事業者との共生や既存交通ネットワークと連動し、市内外の移動者増に寄与する

⑤ 車両選択の方向性(グリスロ等)

- 運転側も乗車側も安心な低速走行(20km 以下)
- 地球環境に優しい「脱二酸化炭素」電動自動車
- 転落リスクのない安心で風雨をしのげる社内環境
- 短い距離(ラストワンマイル)の小さな移動(コンパクト)手段



⑥ 解決のための具体的施策 『(案)白井市地域共助型交通実証事業公募』

- 本事業は令和9年度以降の本格運行を目指した「実証運行」事業と位置付ける
- 費用
 - 車両は市が調達し、無償貸与する(国や県の補助金を活用するとともに、住民の事業取り組みに対するハードルを下げる)
 - 実証運行の立ち上げに係る費用は市が全額を補助する(同上)
 - 本格運行に係る経費は市が支援する(補助割合に関しては現在検討中)
- 事業形態
 - 住民主体の運行団体を市が一般公募する
 - 運行団体は運転手等の採用に係る人材管理、運行管理、安全管理、収支管理等を行う
 - 市は運行団体と密に連携し、安全で安定した運行を下支えするべく役割を担う
- 運行形態
 - 定時運行、もしくは予約運行を基本とする
 - 乗車料金は気軽な利用とともに運行団体の事務負担を減らすため無償化を目指す
 - 運行は平日を基本とし、運行日以外イベント等への参加による認知度向上を行う

⑦ 想定スケジュール(補助金採択や住民公募の状況により変更になる可能性があります)

- 令和8年 7月 補助金(国・県)申請
- 令和8年10月 住民団体公募、車両調達、実証運行準備
- 令和9年 2月 実証運行スタート

⑧ 助け合い活動支援補助金との関係

- 基本的な目的は同様だが、車両を用いた移動サービスは事業規模も大きくなるので、本事業公募の補助金を使用してもらうこととする

⑨ 現在の進捗状況

- 事業公募案の作成
- 補助金申請の準備(環境省、千葉県)
- 車両の選定や調達、管理方法の検討
- 住民団体との意見交換(主な候補地域は2カ所)

⑩ 今後の取組

- 運転手確保や住民意欲醸成のため、まちづくり協議会や自治会への働きかけ
- 安心安全な運行実現のための警察や交通事業者等、関係諸団体へのご相談とルール作り
- 地元企業への協力・支援の打診(協賛・賛助、安全運転講習実施、整備・修理、運搬等)
- 千葉ニュータウン地区における住民主体の交通事業の認知度向上施策の検討・実施
- 活用しやすくセキュアなシステムの選定や導入の準備(予約運行の場合)

以上